

放射線源の所在不明について

1. 所在不明の放射線源

ルテニウム-106

状態：レンズ状の放射線源（厚さ1mm×直径約15mm）

核種と数量：ルテニウム-106、約6メガベクレル

（注）がんの治療のためにがんの裏側に埋め込まれ、放出されるβ線をがん照射し、埋設後数日で抜去されるもの。

2. 経緯

- （1）平成23年9月30日（金）夕刻、（独）国立がん研究センター中央病院地下2階の放射線治療手術室において、患者から治療用の放射線源（ルテニウム-106、約6メガベクレル）を取り除いた。通常、患者から取り除いた当該線源については、鉛容器への格納及び線源庫への収納が行われる。
- （2）しかし、10月3日（月）17時00分頃、翌4日（火）の治療の準備のため、線源庫内の鉛容器を確認したところ、当該線源の所在が不明であった。
- （3）直ちに当該事業所内の捜索を行ったが確認できなかったため、同日21時30分頃文部科学省に連絡するとともに、築地警察署に紛失届を提出した。
- （4）なお、当該線源については、9月30日（金）に患者から取り除いた後、鉛容器への格納及び線源庫への収納が行われずに、感染性廃棄物と一緒に焼却処分された可能性があるため、調査中である。

3. 廃棄物の状況

院内の感染性廃棄物保管庫を捜索したところ、当該廃棄ボックスは保管されておらず、廃棄物の中間処理業者に確認したところ、10月3日に当センターから搬出され、同日中に焼却処分されているとの報告があった。

4. 所在不明の放射線源による放射線の影響等

当該放射線源から1メートル離れた場所での放射線量は、容器等に収納されていない状態でも約0.2マイクロシーベルト毎時であり、1年間その場所においても放射線障害のおそれはありません。また、万が一焼却した場合でも、不燃物のため、拡散のおそれはありません。